

平成 21 年度第 4 回再就職等支援セミナー(平成 22 年 1 月 22 日)

「再就職——わたしの場合」

司会・進行・コメント…谷口 正徳 (人材育成コンサルタント)

体験談…所 英雄/遠田 善光/松坂美智子/佐藤 健一

採用者側からの講師…若井 卓 (東急コミュニティ)



前列左から若井さん、
所さん、松坂さん、
遠田さん、佐藤さん、
谷口さん。

6人で、話し合っ
てもらいました。

■再就職された方の体験談を聞かせてもらう——谷口 正徳

〔谷口〕 今日、再就職に前向きな方が出席されていると思います。このセミナーは、あくまでもご参加の皆様の支援セミナーですから、いかにご参加の皆様のお役に立てるかに主眼をおいて、進行していきたいと考えています。

ところで、最初にちょっとお聞きしますが、できたら自分は月給制のところ
で仕事をしたいのか、あるいはそうではなくてパート的でもいいから働きたい
と思っているのか教えてください。⇒ほぼ7：3ぐらいの割合で月給制の
ところ
で働きたいとお考えの方が多そうですね。その希望に添って働く場所が確保
できればいいですが、いずれにしても有効求人倍率や失業率等の指針で現状が推
測
できますが、今は自分が働きたいと考えている職種で働ける割合は、そんな
に
高くありません。また、職種にはこだわらないから働ければいいと思っ
て
おられるかもしれませんが、労働力として60歳ぐらいをひとつの変革の時期と捉
え
た場合に、現状では30歳ぐらいの方でも希望の職種で働ける確率は非常に低
い
のですから、希望の職種で働くことは非常にむずかしいようです。

いずれにしても、何のために働くのかを考えてみると、それぞれ事情が違っていると思います。そうはいっても我々は健全に生存していかなければなりません。つまり、人間には3つの生き方しかないんです。1つは、自分で働いて、自分で生活の糧を得て、自分の生存を維持していく。2つ目は、福祉とか税金によって自分の生存を賄っていく。3つ目は、誰かに寄生してしまう（笑い）。この3つしかないんです。

皆さんは自分の努力によって頑張っていこうとお考えですから、今日は、その仕事を見つける際に何か参考になることはないだろうかというセミナーです。55歳過ぎて再就職された4人の方にお越しいただいて、お話をうかがいます。後半、皆さんからのご質問も受けますので、それぞれが何かヒントを見つけ出していただければと思います。採用する側からの講師もお迎えしていますので、まずこの5人の方のお話をうかがうことにしましょう。

■業種を広げて、警備の仕事に——所 英雄

〔所〕 はじめまして、所英雄です。現在56歳で、再就職してちょうど1ヵ月たったところです。警備の仕事についています。

一昨年に会社が倒産することになり、それまでの仕事を失くしました。失業するのははじめての経験でしたので、2008年12月からハローワーク通いが始まりしました。横浜のハローワークでしたが、最初に驚いたのは人の多さでした。

それまでは製造業で24年間、資材関係と営業の仕事を中心にやってきて、最後は営業でしたので、ハローワークで営業中心に仕事を探し始めました。めぼしいものが何件かあって、紹介状を書いていただいて応募しましたが、大体書類選考で不採用になり、面接まではほとんどいきませんでした。そうこうするうちに2～3ヵ月が過ぎました。私は、最初は2～3ヵ月で仕事が見つかるだろうとタカをくくっていましたが、現実はなかなか厳しいものがありました。

それで、少し分野を広げることにしました。学生時代、洋菓子関係の店でアルバイトしていて、その後8年くらいは接客・サービス業で働いていたこともあったので、その方面の求人も探し始めたのですが、問合せをもらうと多くは女性を募集しているとか、年齢的に合わないとかいわれました。

それでもハローワークには1日おきぐらいに通って、いくつか応募もしましたが、全部不採用で、かなり落ち込んではいましたが、自分なりに気持ちが切れないように気をつけておりました。

そこで、サービス業関係も厳しいことがわかったので、もう少し業種を広げてみることにしました。ハローワークの相談窓口の方にマンション管理なんかもいいのではというアドバイスをいただいたので、そちらの方にも何社か応募してみましたが、それも不採用でした。その頃はまだ55歳でしたので、今度は

反対に若すぎたようで、実際に採用になったのは、年金生活をしながら働きたいという 60 歳以上の方のようでした。実際全部で 20 社ぐらい応募して、面接までいったのは 5 社ぐらいでしたが、最終的に採用には至りませんでした。

そうこうするうち、「みなと*しごと 5 5」のことを知り、横浜だけでなく、こちらにも顔を出すようになりました。親身に相談にのっていただき、いくつか紹介もしていただきましたが、やはりそれもうまくいきませんでした。そのうち半年以上が経過し、新聞広告等で見つけた会社にも応募してみましたが、やはりダメでした。

10 ヶ月ぐらいたち、どうしようもなく、友だちにも相談しました。友だちは話を聞き、励ましてくれたので、自分にとっては精神的な支えになりました。

その後、更に業種を広げて、警備の仕事にも何社か応募しましたところ、そのうちの 1 社に去年の 12 月になって採用されました。失業してからちょうど 1 年がたっていました。

最初はずっと月給制のところを探していたのですが、今採用されているところは時給制です。それでも月額に換算すると 20 万円近くにはなるので、月給制にこだわるのも止めました。自分としてはずっと働きたいという気持ちが強かったので、働ければ何とかなるだろうと考え、それと、労災、雇用保険や厚生年金、健康保険などが整備されていたので、気持ちを切り替えて、その警備会社で働くことにしたのです。

■ダブルワークで、収入を確保——遠田 善光

〔遠田〕 私も所さんと同様に、横浜のハローワークで職探しをしました。

私は、平成 19 年まで自営で商売をしていましたが、それがうまくいかなくなって廃業しました。それまで一度も会社勤めをしたことはなかったけれど、住まいのそばにあったハローワークに毎日のように通って職探しをしました。毎回待っている人が 50 人近くいて、必ず 1 時間近くは待ちました。自分でだいたいこんな条件のこんな仕事をと考えていましたので、それに合う仕事を検索しました。求人票には年齢不問と書いてありますが、問い合せていただくと、たいてい年齢ではねられて、応募できないことがほとんどでした。

ところが偶然に、こちらの「みなと*しごと 5 5」という組織のことを知り、住まいは横浜だったけれどこちらでも仕事探しを始めました。こちらにくるようになって、自分だけで考えていてもダメだなということがよくわかりました。

自分としましては、飲食関係の商売をしていたので、特別なスキルがないので、やはり飲食関係の仕事から探し始めました。私がやっていたのは軽食の喫茶店だったので、入ったからには長続きさせたいと考えておりました。

今勤めているのは、横浜高島屋のなかの日本蕎麦屋さん、朝早くは、港区

麻布十番のパン屋さんに勤めています。私は、最初から時給の方を希望していました。パートでいいからなるべく効率よく確実に給料がもらえればと考えて探しました。19年に廃業してから2年間は、東神奈川の病院の給食部でお世話になりました。そこでは准社員として勤めさせていただきました。

ハローワークで検索していて気付いたことは、パソコンでの検索だけでは書かれていることしかわからないので、それを中心に探しておりましたが、「みなと*しごと55」にきてからは、話をしながら自分の希望も伝えながら、探していくことができ、面接まで漕ぎつけることもできました。話をしていくなかで、面接を受ける際にはこういうことにも気をつけないといけないなというような気付きがたくさんありました。やはり話をして、自分のこともわかっていたくなかで、何とか面接にまで漕ぎつきたいという気持ちが自分のなかで大きくなっていきました。それで、書類選考で落とされたこともけっこうあります。求人側は、こういう人間がほしいということは決めているんですね。それで杓子定規な答しかいただけないけれど、それはそれで仕方がない。

あとは、すぐにあきらめないで、なんとか面接までもっていけるように頑張ってみようと、いろいろ方法を考えるようになりました。検索で出てくる条件をよくみて、そのなかで何とかならないだろうかよく考え、ハローワークで紹介していただくときにも、ここをこういうふうに聞いてほしいと伝えるようにしています。そして、面接までこぎつけるよう努力しています。もちろん断られることも多いですが、それでも2ヵ所に就職することができました。

将来的には65歳までは再雇用ということで、少しずつ定年は伸びる傾向にあります。次第に期間を短くして契約する場合も多いので、本当にしっかり頑張っていくには、仕事のなかでこの会社にとって必要なスキルは何だろうかと考え、若い人がいいということも多いけれど、私たちのような年齢の人にしかできないこともあると考え、自分の特長を生かしたスキルを身につけて、少しでも長く仕事を続けていくための努力をしようと考えようになりました。

私は、食べるのが好きなので、今はパン屋さん和日本蕎麦屋さんで、食材は違いますが、自分に興味のあることで、いろんな方との出会いを通して自分も勉強しているところです。今60歳ですが、そういうことを通じてこれからも頑張っていけたらいいな、と考えています。

最初から自分は、できるだけ長く働きたい、収入も安定的に得たいと考え、ダブルワークでの働き方を希望しておりました。収入は2ヵ所合わせて20万円ぐらいです。喫茶店を経営していたときと比べると、収入はともかくとして、今のほうが精神的にはずっとラクです。

■会社が廃業。世の中にはいろいろな仕事があることを知る——松阪美智子

〔松坂〕 私の場合は、昨年 2 月まで大田区にある製造業で働いていたのですが、不況の煽りで会社が廃業になりました。ただその前の 1 年間ぐらいは、仕事的には非常にたいへんだったので、2 月に廃業になったときには、正直ホッとしたりぐらいでした。廃業だったので、失業保険がすぐにもらえたので、最初はそれをいただきました。最初の 2~3 ヶ月は身体がすごく疲れていて、再就職のことは考えられませんでした。13 年間、そこで全力投球で働いてきて、家庭も犠牲にしていたこともあったし、とりあえずはゆっくり休みたいというのが本音でした。

大森のハローワークに行ったのですが、まず人の多さにびっくりしました。生まれてはじめてのハローワークでしたが、ちょうど時期的に不況の嵐のなかだったため、びっくりするような混雑で、待ち時間が長く、行く度に精神的にすごく落ち込んでしまいました。そこでは、まず年齢の壁にぶち当たりました。

自分がこれまでやってきたような仕事は、年齢不問と書かれていても、問い合わせていただくとまず年齢ではねられました。今の仕事が見つかるまでに書類選考などもありましたが、面接にも 7 ヶ所ぐらいは行きました。面接を受けると、手応えは感じるのですが、最終的には私よりも少し若い人を採用したようで、まず年齢の壁にぶち当たりました。

私は今 62 歳なので、年金も少しはいただいているので、一時はもう仕事はやめようかな、とも考えましたが、半年ぐらい家にいて感じたことは、だんだん身体の悪いところを探すようになってくるということでした。家の仕事もあり、何時間ぐらいなら働けるかと考えて、これまでのようにフルタイムで働くことは無理だとしたら、給料的なことは全部脱ぎ捨てて、時給で働いたほうがいいのかと、パートのほうに切り替えました。

それで検索してみると、女性の場合は結構仕事がありました。あきらめないで探せば、清掃やサービス業やベビーシッターなどの家事代行など、選択肢は結構あると思われました。それで、1 日のうち何時間ぐらい仕事をしようかと考え、収入はこれまでの半分でもいいと思いました。そして、その仕事に慣れてきたらもう一つ仕事を探してもいいかなと、今は思っています。

ハローワークに行っている間は、自分自身の気持ちが落ち込まないように、気持ちを奮い立たせて、前向きな気持ちで一生懸命やろうと考えていました。

去年の 6 月ぐらいに、朝たまたまテレビを見ていたら、この「みなと*しごと 55」の紹介をしていました。そのなかで、かなり高齢の女性が仕事探しをしているという報告があって、興味を持ちました。その方が一生懸命仕事を探しているという前向きな姿勢に感動しました。それからしばらくして、今度は新聞にこのことが紹介されていたので、自分で連絡して、来てみました。そうしましたら、丁寧に話を聞いて、親身になって相談にのってくれました。

それで私は、なんとなくここへ来るのが楽しみになって、通っていました。失業したのは去年の2月で、最終的に仕事が決まったのは去年の10月で、ギリギリ失業保険の切れる直前でした。

今考えれば、自分としては会社が廃業になったことは痛手でしたが、身体も休養できたし、ハローワークを通じて世の中にはいろいろな仕事があることもわかったし、前向きに考えれば、世の中のいろいろなことがわかってよかったなと思っています。

今は、「みなと*しごと55」の紹介でパートで原宿で仕事をしています。スウェーデン刺繍の教室の清掃と、社長さんの自宅の清掃に交互に行っています。自宅からちょっと遠いので、断るつもりで面接に行ったのですが、社長さんに会って話をして、こういう方のところだったらやっていけるのではないかと思って、仕事を引き受けました。最初は、週に4日で1日3時間の約束でしたが、2ヵ月ぐらい経過したとき、自宅から遠いこともあり、1日6時間で、週2日でもいいということになりました。仕事の時間は週12時間で変わらないので、私としては、たいへん助かっています。

私は、ずっと事務の仕事をしてきて、清掃は初めてでしたが、家庭の仕事の延長でもあるので、慣れてきたら、この仕事も結構楽しくやらせていただいております。身体も慣れてきましたので、将来的にはもう一つ仕事を探してもいいかなと考えているところです。

■どんな仕事でも楽しんでやるのが大事——佐藤 健一

【佐藤】 私は74歳になります。実際の話、74歳にもなると、どこにも仕事はありません。実は私は47年間小売業をやっておりまして、不況の煽りをくって店を閉じました。私の取り得は健康であるということです。先日も、面接に行った折に、本当に74歳かといわれたぐらい身体は元気です。

今は、2本の大事な仕事をボランティアとしてやっています。昨年までは、東京オリンピック招致の仕事を理事としてやっておりました。そのときは1週間に何日か、どうしてもそちらの仕事に行かざるをえないので、自分の希望する日にできる仕事を、ということで考えました。そうすると清掃しかありません。しかし正直な話、私は70歳になるまで箒や塵取りなどは一切持ったことがない人間だったので（笑い）。

しかし現在の清掃の仕事が見つかって、1週間に4日間、16時間ぐらい働いております。時給1000円です。各区にあるシルバー人材センターに登録しても、1週間に1時間の仕事があるかないかの状況です。「みなと*しごと55」は親身になって考えてくれて、すぐに面接の段取りをしてもらったときには、たいへんうれしかったです。職員さんが、面接には一緒に行ってくれて、これなら使

えるだろうということで、採用になりました。かれこれ 5 ヶ月半になります。今では会社から、もう 1 時間やってもらえないとか、もう 1 ヶ所お願いできないかといわれるようになり、今は 2 ヶ所の清掃を、掛け持ちでしています。何歳までやれるかは心配ですが、74 歳になっても、あと何年やってくれるかといわれると、涙がでるほどうれしいものです。

しかしながら、これからかなり高齢の方が清掃の仕事をやろうとお考えになるなら、私がお勧めするのは、エレベーターのあるビルの清掃を探した方がいいということです。私が今やっているのは 5 階建てのビルで、エレベーターがありません。清掃するには、5 階までバケツを持って上がらなければなりません。1 日に大体 4 往復ぐらいするわけです。これはたいへんな仕事です。私はまだへこたれませんが、実際のところあと何年できるだろうか、と考えざるをえません。清掃は女性でもできる仕事ですが、できればエレベーターのあるビルの清掃をお勧めします。求人情報にはエレベーターがあるかないかは書いてありません。ですから前もってご自分でどのビルの清掃をするのか確かめてから、契約なさったほうが良いと思います。

実際、今私が担当しているのは、5 階建てで、20 世帯が入っているマンションです。20 世帯が入っていると、これは非常にキツイ仕事になります。

高齢になってくると、清掃以外の仕事はほとんどみつかりません。実は駐輪場の整理の仕事もしたことがありますが、自転車を持ち運ぶのは非常に重労働です。ですから清掃の仕事は、意外にラクだと思います。清掃なんかと思われるかもしれませんが、高齢者にとってはなかなかおいしい仕事だということを、皆さんにお伝えしておきたいと思います。

それから、イヤイヤやるのであれば、これはお年寄りでもお勧めできません。やはり笑顔でもって楽しく仕事し、雇い主である会社とも明るくコミュニケーションをはかれるようにして、健康である体をぶつけていかれるのが一番だと思います。70 歳を過ぎたら仕事は何もないよというのは、間違っていると思います。本当にやる気になれば、楽しい仕事も見つけれられると思います。

この「みなと＊しごと 55」は、本当にマンツーマンで親身になって仕事探しのお手伝いをしてくれますので、皆さんにもお勧めしたいと思っていますところ です。

私は、不況の煽りをくってこれ以上小売業をつづけていてもダメだと考え、70 歳前に店を閉じました。その後は細々と不動産業で食べていましたが、ボランティアで出かけることも多いので、交通費ぐらいは自分で稼ぎたいと考え、また家でテレビをみて留守番しているのも苦痛だったので、何か自分にもできる仕事はないかと考え、仕事探しをはじめました。そこで見つけた仕事が清掃だったというわけです。

みんなは、お前は食うために働いているんじゃないんだ、小遣い稼ぎなんだろう、といわれるのですが、実はそうではないんです。人には、人それぞれの道があると思うのです。自分のことは自分で始末できる年までは働きたいというのが私のモットーで、だからお掃除でも楽しんでやっているし、足腰立たなくなるまでは働いて生きていきたいと考えています。ただいつまで使ってくれるかは、事業者側の考えなので、よくわかりません。事業者からもうだめだと言われたら、そのときには潔く辞めるしかないなと思っています。

■採用する側は、何を基準に面接するか？——若井 卓

〔若井〕 東急コミュニティはマンションの管理業を営んでいる会社です。私はそこでマンションの管理人さんを採用する担当です。毎年、履歴書を1300～1500ぐらいいただいている、そのなかから400～500人の管理人さんを採用しています。首都圏で2700人ぐらいの方に、管理人として働いていただいています。70歳が雇用限度ですので、限度年齢になられた方200～300人の補充と、いろいろな事情で退職なさる方の補充ということで、毎年400～500人の方を採用しているわけです。

皆さま方の中には、すでに就職活動をなさっている方、まもなく始めようという方など、いろいろな方がいらっしゃると思いますが、会社に応募する際の留意点や面接を受ける際に気をつけた方がいいことなどを、簡単にお話してみます。

（1）中高年の一般的な仕事選び

日本の社会は、60歳を境にして制度がガラッと変わります。年金制度にしても、会社にお勤めだった方は、それまでは会社に任せておけば、会社の総務や人事の人がそれぞれ面倒をみてくれました。しかし、60歳を過ぎて一端会社を退職すると、年金から健康保険などすべてを自分で手当て、手続きしなければなりません。だれも面倒みてくれません。

60歳以下の方も、そろそろ勉強しておいた方がいいと思います。自分はどのくらいの年金の加入期間があるのか。国民年金なのか、厚生年金なのか、共済年金なのか、企業年金なのか、どの制度に加入していて、受給権はいつから発生するのか、額はどれくらいなのか、会社の総務に聞くなどして調べればだいたいのことはわかります。

その上で自分のライフスタイルを考え、セカンドライフ・サードライフをどのように楽しみ、社会との関わりはどのように保っていくのかなどを、家族と相談しながら考えておくといいと思います。面接で、お話をうかがいますと、仕事人間だった方にかぎって、自分の今後のライフスタイルをほとんど考えて

いない方がたくさんいらっしゃいます。

基本的には自分の年金の額をベースとして収入・勤務日数・通勤距離等を大まかに考えてみて、どういう仕事があるのか、どのくらいの月収が必要かを考え、その上で、働き方を選んでいただく。通常のフルタイムでは、40時間の契約。それから4分の3ルールというのがある。30時間を超えたら社会保険に加入の義務があります。厚生年金と健康保険は必ず加入しなければならないので、会社半分・本人半分負担になります。ですから、求人票に載っている給与の額面から控除されます。

30時間未満だと、健康保険はご自身で手当てしなければなりません。この年代でしたら、国民年金の加入義務は任意になりますので、その辺のところはご自身で判断いただく。ただし厚生年金に今まで20年加入してきて、あと5年足りない、あと3年足りないというような方は、その辺のところをしっかりと考えないと、受給権がなくなりますから要注意です。

一般的にいえることはこれまでで、あとはそれぞれ事情が違いますので、それぞれでよく考える必要があります。

日本の社会制度からいえば、60歳が境目です。年金の受給年齢は現在徐々に引き上げられているところで、将来的には65歳になることは皆さんご存じのとおりですが、それにあわせて、会社は65歳まで雇用延長しているところも多くなっています。裏腹な制度なんですけど、この不景気でどうにも機能していません。ですから、この不景気で一番煽りをくっているのは団塊の世代なんです。雇用延長は拒否されるし、かといって新しい仕事も見つけれない方が、今は世の中にあふれています。

(2) 東急コミュニティの場合

私どもでは、基本的に年金受給者を対象にしています。面接時には、この人の生活基盤はどうなんだろうと、そのへんのところまで考えます。ですからあまりに若い方は、そのうちもっといい仕事が見つければきっとお辞めになるだろうと考え、若い方が書類選考で落とされることはよくあります。中高年の採用市場では、過去の経験則から考えると、だいたいそういうことになっています。決して能力とか人物だけで書類選考しているわけではありません。

私は毎日のように面接をさせていただいておりますが、一昨年の秋のリーマンショック以降、会社がどうにも立ちいけなくなっていて、嘱託で65歳まで雇用されている方が、給料がかなりカットされたりしています。それでももたなくなっていて、辞めてほしいといわれ、私どものところへ面接に来られる方もたくさんおられます。非常に厳しい状況があります。

今の就職状況は、そういったこともあり、非常に厳しいものがあります。お

そらく、今年の年明けから新聞の折り込み広告などでみるかぎり、去年の夏ぐらいと比べると若干増えています。政府の施策が若干は効を奏してきたかなというところはあるのですが、それは若い人からだんだん浸透してきますので、中高年の方にはまだまだ行き渡っておりません。

ただ求人を受け皿はないことはない。どういう企業でも、中高年を雇用している企業では、一応定年でリタイアされる方がいるからです。私どものところでも、年間 200~300 人は限度年度に到達された方がおられますので、中高年の受け皿は必ずあります。

(3) 会社は何を考えて採用しているか

「己を知り敵を知らば、百戦危うからず」といわれますので、日頃私たちが判断基準にしているところをお話してみましょ。私どもは 7 名で採用チームを組んで採用にあたっているのですが、その内輪の話をご参考にしていただければと思います。

まず最初に、職探しをするときには履歴書を書きますよね。履歴書は丁寧に書いてください。何十通も書いているうちにだんだんいやになってきて、中には使い回しをされる方がいます。そういう履歴書は、すぐわかります。折口がよれよれになっているものを送ってくる人もいます。それから、写真は一応ネクタイを締めてキチンと撮ったものをはみ出さないように貼ってください。なかにはセロテープで貼ってくる人もいますが、論外です。いくつの時の写真かと思うようなものを貼ってくる人もいますが、これも勘弁してください。

それから、問合せの電話から採用は始まっていると考えてください。問合せの電話をしたときに、若い女性がでても、昔の部下ではないのですから、タメ口をきいてはいけません。丁寧な言葉で話してください。マンション管理も接客業ですので、こういうのは必ずチェックします。

その後、住まいの場所や年齢で、まずお願いできる人かどうかを判断します。決して若いからいいということではありません。

個別面接のときには、当然のことですが、服装もきちっとして、最初と最後の挨拶は丁寧にしてください。終わったらホッとして、さっさと帰る人がいますが、「ありがとうございました。よろしくお願ひします」という挨拶は忘れずにしてください。

それから、面接官は必ずリラックスさせて、油断をさせます。そのとき、腕を組んで、足を組んで、フンフンというような態度は禁物です。ゆめゆめ油断をなさらないようにしてください。面接官の策にはまっけてはいけません。前職が管理者で、部下をたくさんお持ちになっていたような方は、往々にしてそういう態度をとりやすいので、十分注意してください。これは、ご本人は気がつ

いていないことが多いので、要注意です。

履歴書については、私どもの業種では、履歴書の右半分のキャリア・スキル・資格は、ほとんど関係ありません。お人柄・経験を重視します。いろいろな経験をお持ちの方も多いと思いますが、最初はそれにフタをして、新しい仕事に臨んでください。そのうち自然に慣れてきたら、ご自分の人柄や能力をお客様にお伝えしていただきとお話しております。

■就職先も他社との競争、その戦力に資する人材であること——谷口 健一

〔谷口〕 元々は東急不動産のマンション管理は東急コミュニティと決まっていたんです。しかし今は、系列であっても管理会社として他社に負けない料金でサービスの質を維持しなければ、継続して利用してもらえない時代になっているようです。ですから、管理人や清掃担当の人も、他社より優れた人を厳選して配置していかなければならないというわけです。それは、マンション管理だけでなく、どの業種でも同じことなのです。

したがって、それぞれの会社が生存を賭けて市場で戦っている、そのこと自体が非常に厳しい時代になっています。そして、その戦力である働いてくれる人に対する見極めも、従来に増して一層厳しくなっているという一連の流れがあるということを、まず理解しておく必要があると思います。

■読んでもらえる履歴書を書くこと

〔谷口〕 実は、私は35歳から昨年まで、ずっと社長をしておりました。コンサルティング会社や人材派遣会社などを複合的にやっておりましたが、63歳になったので、現役をはずれました。先ほど、採用する側からみての履歴書の取扱いについてのお話がありましたが、私もずっと採用に関わっておりました。経営とは人材と人事だからです。

まず見栄えの悪い、汚れたり、字が踊っているような履歴書は、読みもしないで外されます。年齢とかを見る前の段階です。それから使い回しの履歴書も外します。当社用に書いたのではないな、というのはすぐわかります。応募の日付を修正液で消して書き直してあったりすれば、どんなに知識やスキルがあっても面接の機会は与えられません。履歴書は人格を表しているものです。履歴書を書くときは、応募する会社のことを考えながら、心を込めて書くようにしてください。

内容はオーソドックスに、最低限必要なことをきちっと書いてください。これはお年を召した方に多いのですが、年齢と合わない写真を貼ってくる方がいます。特に女性に多いです。この年で、なんでこの写真だと思われる方は、こわいですから外します（笑い）。

というわけで、内容を読まれる前に外されている履歴書がすごく多いということを知っておいてほしいと思います。

それから、履歴書は、応募する側としてだけで書くのではなく、自分が採用するならという視点がほしいですね。

職務経歴書は、専門職でなければ、一般的には簡単でいいでしょう。なかには職務経歴書マニアみたいな方もいて、詳細に何枚も書いてくる方もおられますが、実は会社は、履歴書を見る段階では職務経歴書には目を通す時間はありません。スペシャリスト的な職業については、職務経歴書は非常に重要ですが、新しい分野の仕事に挑戦していこうというときには、職務経歴書はあまり重要ではないと思われます。もし必要な場合にも、簡素に書かれた方がいいと思います。

——〈質疑応答〉——

Q 1. 東急コミュニティの若井さんにお聞きしたいのですが、マンション管理人として働きたい場合、何か資格は必要でしょうか？

〔若井〕 資格の必要な業種は、基本的に社員がやっています。運営担当者といわれているのですが、して。この社員と一緒に現地で管理をしていただきますので、管理人さんには資格は求めておりません。管理人さんは現場で、その手伝いとか清掃とか点検とかをやっていただいております。全くの異業種からきていただくことを前提としていますので、採用後にしっかり研修していただきます。

東京しごと財団さんでは、年に3回ぐらい管理人講習というのをやられています。私は講師として、その研修を受けて社員になった者と一緒に行って、話をさせていただいておりますので、そういう場で勉強されるのもいいかなと思います。

当社の場合、採用時の平均年齢は60～61歳、在職の方の平均年齢は64～65歳、1年毎の契約社員として働いていただき、契約限度は70歳です。

最初の3ヵ月ぐらいは新しい仕事ですので、けっこう苦勞されているようです。仕事はすぐ覚えられますが、苦勞するのはそこに住んでいる方の名前と顔がなかなか覚えられないこと。覚えなくてもいいのですが、覚えた方が仕事は絶対やりやすい。

Q 2. ダブルワークをしておられる遠田さんにお聞きしますが、社会保険などはどうなさっておられるのですか？

〔遠田〕 さきほどもお話がありましたが、週30時間以内であれば社会保険に

加入の義務はないので、私の場合は、2ヵ所とももっと時間が短いので、加入しておりません。自分で国民健康保険に入っています。

〔若井〕 一般的に言えば、ダブルワークなされる場合、一方で社会保険に加入して、もう一方はアルバイトというのはなかなか難しいです。表に出た段階で労災などで嫌がる会社が多いのです。法律上は何ら問題はないはずなんです。問題になるのは、メインになる会社の就業にさし障らない範囲で、ということだけで、できればこちらの仕事に専念していただけないでしょうか、というのが本音です。その辺のところは十分確かめた方がいいと思います。途中でバレたりしたら、面倒なことになるからです。

Q 3. 所さんにお聞きしたいのですが、全く新しい分野の警備の仕事に就かれることに不安はなかったのでしょうか？新しい仕事を始めるということは、ある意味、自分の過去に見切りをつけるということになると思うのですが、そのへんのところで抵抗はなかったですか？

〔所〕 新しい仕事に挑戦するのは楽しみでした。

警備の仕事は、採用が決まっても、すぐには働きません。まず警備協会にいて、4日間30時間の研修を受けないと働きません。それが終わった時点で、今度は現場に行って働き始めるシステムです。その後、何ヵ月か経ったらまた新しい資格をとらせてくれたり、という感じです。これからは、勉強して新しい資格もとっていこうと考えているところです。

もう過去は過去です。そういうふうにしていかないと、これからはやっていけないだろうと思いました。失業して、1年間職探しをしてきた実感としてそう思いました。

また、今の会社の中でも、働く人の年代はさまざまで、20代から60代までいらっしやいます。いろんな会社で働いてきたさまざまな経歴をお持ちの方ばかりです。ずっと警備業をやってこられたという方は、ほとんどいません。

Q 4. ハローワークと「みなと＊しごと55」の決定的な違いはどこにあると思いますか

〔所〕 まず、親身になって話を聞いてくれること。ハローワークはたいへん混んでいるので、待ち時間が長い上に、なかなか一人ひとりの話を聞いてもらえない。時間で区切られているから、事務的な対応しかできないような感じがします。あと、独自の求人情報に関しては、仕事の内容についても丁寧に説明してもらえることでしょうか。

〔遠田〕 また、独自の開拓情報ではなくても、ここを受けたいとお願いしたら、近くであれば、どういうところか前もって調査に行ってくれたりもすると

ころです。足を使って仕事をしているので、求職者に対しても、実際にどんなところか自分の足と目を使って見てきたほうが良いというアドバイスもいただきました。

■まとめとして——試用期間に油断は禁物

〔谷口〕 本日聴講いただいている方は、過去の職種にこだわっておられる方はほとんどいないと思うのですが、その上で応募してもなかなか仕事が決まらないという現実を背負っておられるのではないのでしょうか？

私がお願いしたいのは、ぜひ面接に応じてもらえるような方法を考えましょうというのが第一です。会社選びから始まって、履歴書の書き方や内容を含めて、よく考えて先方が面接に応じてくれるような応募をしてほしいということです。面接の連絡を電話で受けたときの話し方も重要です。

そして第二の段階は、いかに面接を突破していくかということだろうと思います。その場合、契約社員であろうとパートであろうと時間給であろうとも、男性なら背広もしくはブレザーで、ネクタイ着用ぐらいは、したほうが良いと思います。ジャンパーなどで面接にこられると、採用する側としては、「本気で仕事をする気があるのだろうか」と思ってしまいます。たくさんの方を面接するので、どちらが好ましいかといえば、もちろん服装のキチンとした人の方を選びます。人格の問題ですから。

そして、もうひとつ、試用期間の問題があります。この試用期間を突破できるよう、頑張らないといけません。この試用期間の過ごし方がたいへん重要だと思います。折角面接を突破して試用期間が始まるわけですが、この試用期間で皆さんは解凍されて、元に戻ってしまうわけですね。応募しているときには、自分の過去はもういい、こだわりは捨てる、と言っていた皆さんが、試用期間に入ると、自我が出てしまうんですね。実際には、この会社のこのやり方はおかしい、こうした方がいいんじゃないか、とか、本来の自分の価値観みたいなものを、油断して出す人が多すぎるんです。そして、試用期間が終わったら、もう結構です、といわれてしまう。なんのために今まで苦労してきたんですか？

まだ正式に採用されるかどうか決まったわけではないのに、長い人なら1年も2年も仕事探しに苦労してきたことをすっかり忘れて、安心して本来の自分をさらけ出してしまいます。それは、採用者側からすると使いにくい、自分の立場をわきまえない人ということになる。この点はぜひ注意してほしいと思います。このようなケースは、残念ながら中高年になるとたいへん多いと思います。これほど残念なことはありません。試用期間を過ぎ、少し仕事にも慣れてきて、

「〇〇さん、なにか意見はない?」「何かいい改善案はないか?」といわれるように認められてきたら、存分に皆さんのキャリアを発揮されればいいのです。そのときには、「こういうやり方もあるんじゃないでしょうか」というような提案のできる場を、会社はいくらでも作ってくれますので、そこで存分に経験と現状をマッチングさせればいいと思います。

このことを忘れないようにしないと、それまでの苦勞が一瞬にして水の泡になってしまいますので、充分気をつけてください。

これが、私からのお願いです。いずれにしても、我々にとっては今日が最も若い日ですから、明日からではなく今日から新たな挑戦を始めましょう。

長時間お付き合いいただき、ありがとうございました。